

シヤンチョウ

陝州は人戸僅に五百を有するに過ぎず。城は土壁より成りて、北は黄河に據り三面皆山、主に石炭及驢馬を産し、又毛氈を製出す。降雨は六月に多く、冬季は雪甚だ稀に、且つ結氷せずと。土民齊しく鴉片を嗜む。市内に中學堂(現在學生二十四名)高等小學堂(現に學生二十名を有せり)外に蒙學堂(小學堂と略々同し)八個、巡警五十名、駐兵約百名を置き電報局、郵便局を備へたり。

大谷伯と邂逅

予の陝州に着するや、會々本派本願寺大法主、大谷光瑞伯、同尊由師の一行(堀賢雄師、吉弘滿城師、渡邊哲乘師、谷清輝師、福井華瑞師、以下)が、布教且つ歴史研究の爲め、西安即ち長安へ向ふに邂逅し、其後同地に到る迄相前後せり。伯は單に佛教一派の大法主たるのみならず、有名なる旅行家にして、歴史學、地理學上に興味を有し、該博の智識を有する人なるが故に、予が爲めに多大の同情を寄せらる。嘗て喀喇崑崙山カラコルムの西路を探檢せられしに因り、其の詳細なる談話及携行品に就ての注意は、予か遼遠なる前途に、深厚の教示と鉅多の利益とを附與せられたり。此の邂逅は、空谷の梵音を聞くか如く、予は痛く伯の懇切に感激せり。伯の好意は、之に止まらず、喀什噶爾カシガール駐在の英國貿易事務官マカートニ氏を初め、英領印度に於ける紳士への紹介狀を與へられ、且つ寫真器